

株主  
通信

## 平成28年度 第2四半期

平成28年4月1日～平成28年9月30日



—響きあう心、ずっと、ずっと—



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、平成28年度第2四半期(平成28年4月1日から平成28年9月30日)を終了いたしましたので、「株主通信」をお届けし、事業の概況につきましてご報告申し上げます。今後とも、変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 **川田 和照**

## ■トップインタビュー

### Q 第2四半期を振り返り、事業状況についてお聞かせください。

前半期の連結売上高は250億7千7百万円、連結営業利益は△6億2千4百万円という結果となりました。印刷事業の売上は、出版印刷部門は単行本、絵本、コミックなどの書籍や雑誌の売上がともに好調に推移しましたが、新聞印刷の売上は減少しました。また商業印刷部門は、リーフレットやチラシ、POP、ノベルティーなどの売上が増加し、印刷事業全体で246億6千1百万円(前年同期比0.5%増)となりました。一方、出版事業の売上は、小学校教師用指導書が減少したため4億1千6百万円(前年同期比28.4%減)となり、全体では前年同期の実績にわずかに届きませんでした。

年初に掲げた経営方針スローガン「顧客満足度向上にむけ、創造的な事業活動への変革を推進する」に基づき、「お客様目線に立った営業スタイル」、「お客様のニーズに応えるソリューション体制」を第一にし、後半期はグループ全体で通期予想の達成を果たす所存です。



### Q 今後の見通しと、第3四半期以降の対応についてどうお考えですか。

印刷市場は依然として厳しい状況ですが、企業における販売活動の回復傾向と、インターネットと連動したメディア・ミックス・マーケティングの需要増に伴う紙媒体の活用が期待されます。

例えば今年、コミックや小説を原作とした映画が立て続けに大ヒットしましたが、関連商品などへの展開も一昔前とは比べようがないほど、スピーディに展開していま

す。SNSなどの利用拡大による一般消費者の行動の変化に対応するためには、“スピード感”が重要になっています。

当社としましては、お客様のさまざまなご要望への対応力と即応性を重視し、小ロット・多品種・短納期に対応した“製造ラインの効率化”と“総合品質保証体制の強化”に努めます。これにより、お客様からさらに信頼され、新しい価値を提供できる企業を目指してまいります。また、印刷事業で培われたノウハウを活かし、既存営業領域とシナジー効果が生まれる新たな事業の開拓に挑む所存です。

### Q 第3四半期以降の具体的な取り組みについて、特に注力している施策は何でしょうか。

今、当社が躍進を遂げるために最も取り組まなくてはならないことは、やはり“収益力の拡大”です。企業としての責任を果たすためにも、継続的なコスト削減とあわせて、売上を拡大して、利益を確保しなければなりません。

そのためには、さらに受注領域を拡大し、新たなソリューションを提供するための成長投資を推し進めていきます。ソフト面においては、BPO業務の拡充、ITを活用したセールスプロモーション事業の拡大、電子書籍・デジタル教材の制作体制強化への投資を行っていきます。

また設備面では、書籍一貫製造の主力工場である沼津工場において、小ロット化・高品質化に対応した文庫製造ラインの構築、多様なアイデアを形にできる上製本ライン及び合紙絵本製造ラインを刷新していきます。さらに、

これまで培ってきた技術・ノウハウをもとに、新商材開発や高付加価値印刷への取り組みを進めてまいります。

### Q 多様化するメディアの中で、ペーパーメディアの可能性をどうお考えですか。

「紙メディアは無くなるのか?どうなるのか?」、専門家でも意見が分かれると思います。しかし、実は人類が創り出した媒体の中で、廃れ滅びたメディアはありません。

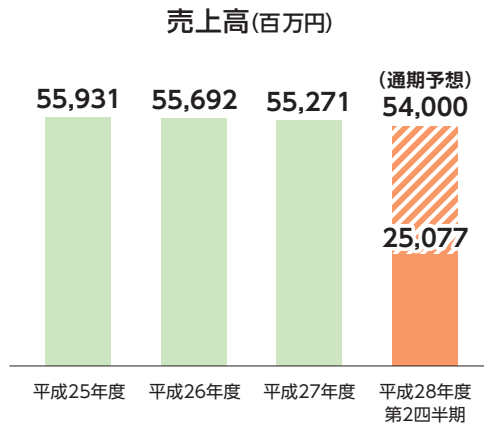
人類は、文字の発明から本・印刷・新聞・写真・映画・ラジオ・TV・インターネットと、文明とともにメディアの手法を発達させてきました。20世紀以降を見ても、それぞれのメディアは共存しています。それぞれの発達と、人間の知的成長には相互作用のような関係があるのかもしれない。つまり、人は必要に応じてメディアを使い分けています。ここに、可能性があると考えています。

当社の商材で「speak(スプレック)」※という合紙上製本があります。これは本を見開きに広げると、さらに折り曲げていた部分が展開し、倍の面積の紙面が目の前に広がるものです。この商材は、人の注意や興味を促すので、参考書やカタログなどへの応用も期待できます。このように、ペーパーメディアの活用と探求には、終わりが無いと考えています。今後も当社は、お客様や市場の課題を先取りしながら、新しいメディアとの融合をデザインするとともに、ペーパーメディアの可能性をさらに追求してまいります。

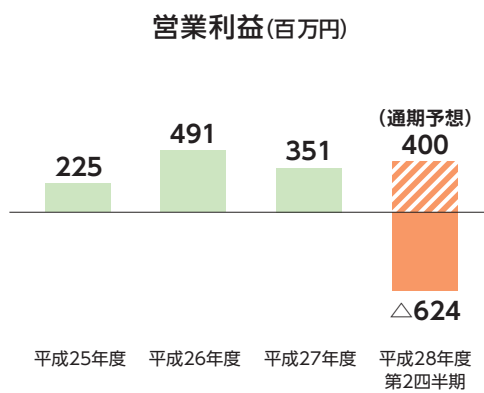
※「speak」については、当株主通信の「トピックス」をご参照ください。

# RESULTS

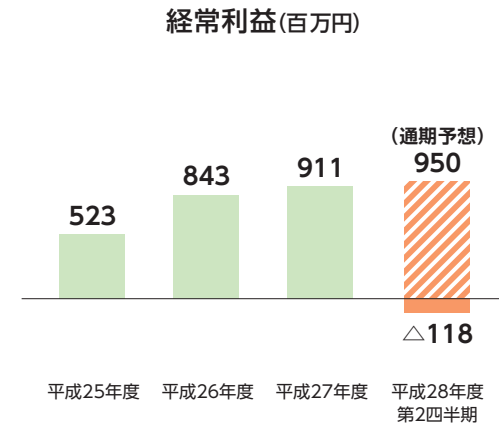
## 業績の概況(連結)



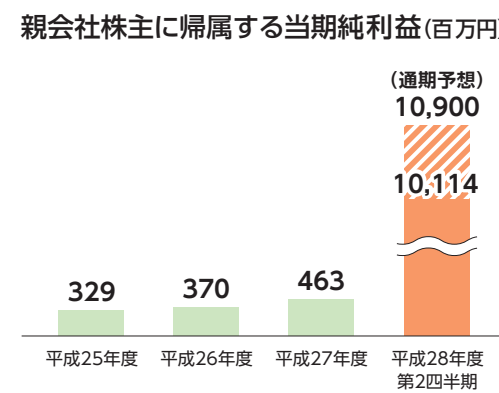
**売上高**  
250億7千7百万円



**営業利益**  
△6億2千4百万円



**経常利益**  
△1億1千8百万円



**親会社株主に帰属する当期純利益**  
101億1千4百万円

# SEGMENT

## 部門別概況

### 印刷事業

■ 出版印刷部門



### 商業印刷部門

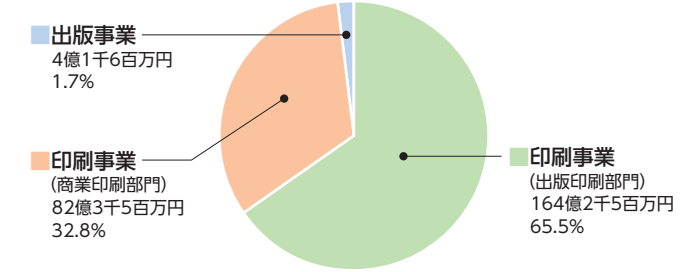


### 出版事業

■ 教科書



### 事業別売上構成比



### 印刷事業

- ・出版印刷部門では、単行本、絵本、コミックなどの書籍や雑誌の売上が好調に推移したものの、新聞印刷の売上が減少した結果、当部門の売上高は164億2千5百万円(前年同期比0.1%減)となりました。
- ・商業印刷部門では、カタログ・パンフレットが減少したものの、リーフレット・チラシ、POP、ノベルティなどが増加した結果、当部門の売上高は82億3千5百万円(前年同期比1.6%増)となりました。

### 出版事業

- ・出版事業では、小学校教師用指導書の売上が減少した結果、当事業の売上高は4億1千6百万円(前年同期比28.4%減)となりました。

※通期の業績予想は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

### 合紙上製本「spreak(スプレック)」を商材開発

当社は、これまで培ってきた印刷や製本の技術を活かして、ペーパーメディアの可能性を上げられるような商材開発に取り組んでおり、合紙絵本の製本技術を活用した商材「spreak」を開発し、7月より販売を開始しました。

「spreak」は、Spread Bookからの造語で、紙面をより広く使えるよう工夫した合紙絵本の技術として名付けられました。8ページ折の本文が綴じ込まれた合紙上製本仕様で、コンパクトに折り込まれた本文を天または地側に広げると、紙面が倍の大きさに広がります。

合紙絵本は、国内では当社を含めて数社しか製造することができない希少な技術ですが、この技術を活用して、用紙や綴じの加圧などを変えながら、何度も試作製造のテストを重ねた結果、「spreak」の開発にいたりました。今後も当社の強みである技術力を活かして、お客様に喜ばれる商材を開発していきます。



折りたたまれた本文を広げると…



倍の紙面となり、インパクトのある表現が可能

### 文庫製造ラインを沼津工場に新設

沼津工場に文庫本の製造ラインを新設し、稼働を開始しました。最新の高速枚葉印刷機に巻取供給装置を接続し、LED-UVによる速乾の両面印刷を行います。また、文庫専用の折機を併設することで印刷直後に高い折り精度の折丁を製造します。これにより、従来の輪転印刷機と同様に、ワンストップで印刷から折加工までが行えます。

市場環境の変化により、お客様のニーズや課題も多様になってきています。今回新設した文庫製造ラインでは、枚葉印刷機の特徴を活かした、高品質かつ大部数のヒット作から、多点数・少部数の作品まで、多様なロットに対応でき、文庫本の製造において高いパフォーマンスを発揮します。

当社は製品品質の維持向上を重視した生産設備の最適化を通じ、当社の「総合品質保証体制」を強化するとともに、お客様満足度を高めていきます。



文庫製造ラインRS300

### 外勤営業にタブレット端末を導入

10月より外勤営業にタブレット端末を配付し、SFA(営業支援システム)を活用した営業活動をスタートしました。印刷市場の小ロット化・短納期化が進む中で、営業の担当業務はより煩雑になっており、外勤中の成果が多いほど帰社後の業務の負担が大きくなるという課題がありました。

この課題に対し、モバイル環境に適した情報セキュリティ体制を構築し、外出先でも生産部門に対する正確な指示や見積り作成などを行える仕組みを整えました。これにより、移動先でもオフィス内と同じ業務が行えることになり、営業活動が効率化し、その結果お客様の課題の解決に多くの時間を使えるようになりました。

今後は、SFAによる営業活動情報やノウハウの共有化、営業活動履歴データに基づいた新たな営業戦略の立案、管理職のマネジメント力強化により、さらなるお客様満足度の向上、売上拡大を図っていきます。



### 第50回造本装幀コンクール 入賞作品



【日本印刷産業連合会会長賞】  
「わらべきみかのにこにこおめん」(株)冬舎

### 株主優待品 図書印刷オリジナルカレンダー 「図書棚」のご紹介

当社の2017年オリジナルカレンダーは、「世界の花」をテーマに、シンプルで使いやすい、機能的な玉カレンダー「図書棚」シリーズの第四弾です。カレンダーを書棚に見立て、並べた本の背でビジュアルを構成し、当社の高演色・広色域ソリューション「Lastacie(ラストアシエ)」により、鮮やかな色調を表現しました。また、題字と月数字の書は、スタジオジブリの鈴木敏夫プロデューサーに書きおろしていただきました。



連結貸借対照表(要約) (単位:百万円)

科目	当期	前期末
	(平成28年9月30日現在)	(平成28年3月31日現在)
<b>(資産の部)</b>		
流動資産	50,074	34,230
固定資産	41,400	56,306
有形固定資産	20,128	21,200
無形固定資産	136	185
投資その他の資産	21,136	34,920
資産合計	91,475	90,536
<b>(負債の部)</b>		
流動負債	21,319	18,324
固定負債	8,979	12,607
負債合計	30,299	30,932
<b>(純資産の部)</b>		
株主資本	47,668	37,730
資本金	13,898	13,898
資本剰余金	16,489	16,489
利益剰余金	17,482	7,539
自己株式	△ 201	△ 196
その他の包括利益累計額	13,275	21,656
その他有価証券評価差額金	13,161	21,574
退職給付に係る調整累計額	114	81
非支配株主持分	231	217
純資産合計	61,176	59,603
負債及び純資産合計	91,475	90,536

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

資産合計は、前期末に比べ9億3千8百万円増加し、914億7千5百万円となりました。これは投資有価証券が137億7千8百万円、受取手形及び売掛金が39億円、有形固定資産が10億7千2百万円それぞれ減少したものの、有価証券が191億8千4百万円増加したことなどによるものです。

負債合計は、前期末に比べ6億3千3百万円減少し、302億9千9百万円となりました。これは未払法人税等が52億5千9百万円増加したものの、繰延税金負債が35億8千7百万円、支払手形及び買掛金が17億2千万円それぞれ減少したことなどによるものです。

純資産合計は、前期末に比べ15億7千2百万円増加し、611億7千6百万円となりました。これはその他有価証券評価差額金が84億1千2百万円減少したものの、利益剰余金が99億4千3百万円増加したことなどによるものです。

中間配当金について

当社は、各事業年度の業績の状況と今後の事業展開等を総合的に勘案いたしまして、健全な財務体質を維持するための内部留保にも配慮しつつ、株主の皆様への安定した配当を継続することを基本方針としております。

当期の中間配当につきましては、無配とさせていただきます。

期末配当につきましては当社株式1株につき、2円を予定しております。

連結損益計算書(要約) (単位:百万円)

科目	当期	前期
	自平成28年4月1日 至平成28年9月30日	自平成27年4月1日 至平成27年9月30日
売上高	25,077	25,126
売上原価	21,654	21,969
売上総利益	3,422	3,156
販売費及び一般管理費	4,047	3,866
営業損失(△)	△ 624	△ 710
営業外収益	537	504
営業外費用	30	6
経常損失(△)	△ 118	△ 211
特別利益	16,343	57
特別損失	1,061	38
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	15,163	△ 192
法人税、住民税及び事業税	5,102	39
法人税等調整額	△ 76	3
非支配株主に帰属する四半期純利益	22	17
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	10,114	△ 253

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書(要約) (単位:百万円)

科目	当期	前期
	自平成28年4月1日 至平成28年9月30日	自平成27年4月1日 至平成27年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,947	957
投資活動によるキャッシュ・フロー	5,156	△ 611
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 186	△ 179
現金及び現金同等物の増減額	6,918	167
現金及び現金同等物期末残高	19,591	12,450

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

売上高は、前期に比べ0.2%減少し250億7千7百万円となりました。  
印刷事業の売上は新聞印刷が減少したものの、書籍や雑誌、リーフレット・チラシなどの売上が好調に推移し0.5%増加いたしました。出版事業の売上は小学校教師用指導書の売上の減少により28.4%減少いたしました。

投資有価証券売却により課税所得が増加したことで、法人事業税の付加価値割が増加して発生し、販売費及び一般管理費は増加しましたが、原価率の改善により、営業損失は6億2千4百万円、経常損失は1億1千8百万円と前期と比べ損失額を圧縮することができました。また、特別損益に投資有価証券売却益、減損損失を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は101億1千4百万円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書について

「現金及び現金同等物」は、前期末に比べ69億1千8百万円増加し、195億9千1百万円となりました。

営業活動の結果増加した資金は、19億4千7百万円となりました。主な増加要因は税金等調整前四半期純利益151億6千3百万円、売上債権の減少39億8百万円、主な減少要因は投資有価証券売却益163億4千万円、仕入債務の減少17億2千万円であります。

投資活動の結果増加した資金は、51億5千6百万円となりました。主な増加要因は投資有価証券の売却による収入170億1千万円、主な減少要因は有価証券の取得による支出115億円であります。

財務活動の結果減少した資金は、1億8千6百万円となりました。主な減少要因は配当金の支払による支出1億7千1百万円であります。

## ■ 会社概要 (平成28年9月30日現在)

創 業 明治44年3月17日  
 設 立 昭和18年3月17日  
 資 本 金 13,898,815,728円  
 従業員数 1,563名(連結)

## ■ 取締役および監査役

代表取締役会長 沖 津 仁 彦  
 代表取締役社長 川 田 和 照  
 取締役副社長 高 坂 範 之  
 専務取締役 矢 野 誠 之  
 常務取締役 宮 川 典 久  
 取締役相談役 足 立 直 樹  
 取 締 役 藤 野 俊 二  
 取 締 役 稲 川 好 昭  
 取 締 役 太 田 貴 久  
 取 締 役 大 内 哲 夫  
 取 締 役 北 村 信 彦  
 取 締 役 大 野 仁  
 取 締 役 内 藤 平  
 常 勤 監 査 役 杵 村 勝 博  
 常 勤 監 査 役 菅 原 健 司  
 監 査 役 矢 部 隆 三

(注1) 取締役北村信彦、大野仁、内藤平の各氏は、社外取締役であります。

(注2) 監査役杵村勝博、矢部隆三の各氏は、社外監査役であります。

(注3) 取締役北村信彦、内藤平の各氏は、東京証券取引所有価証券上場規程第436条の2に定める独立役員として同取引所に届け出ております。

## ■ 執行役員

常務執行役員 田 中 秀 史  
 常務執行役員 服 部 武 郎  
 執行役員 工 藤 浩  
 執行役員 雨 宮 千 尋  
 執行役員 金 子 裕 則  
 執行役員 岡 沢 宏 和  
 執行役員 中 村 克 美  
 執行役員 塩 谷 晶 正

## ■ 事業所

本 社 〒114-0001 東京都北区東十条3-10-36  
 TEL 03 (5843) 9700  
 神田オフィス 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-27-3  
 TEL 03 (5843) 9880  
 大阪営業部 〒553-0001 大阪府大阪市福島区海老江3-22-61  
 TEL 06 (6136) 4820  
 名古屋営業部 〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅2-37-21  
 TEL 052 (485) 9273  
 静岡営業部 〒410-0398 静岡県沼津市大塚15  
 TEL 055 (967) 4732  
 プリプレス本部 〒114-0001 東京都北区東十条3-10-36  
 TEL 03 (5843) 9455  
 沼津工場 〒410-0398 静岡県沼津市大塚15  
 TEL 055 (966) 1117  
 川越工場 〒350-1165 埼玉県川越市南台1-10-5  
 TEL 049 (248) 3511

## ■ グループ会社

関西図書印刷株式会社  
 〒567-0865 大阪府茨木市横江1-7-1(本社・茨木工場)  
 〒651-1516 兵庫県神戸市北区赤松台1-4-13(神戸工場)  
 〒614-8172 京都府八幡市上津屋林61(京都工場)  
 学校図書株式会社  
 〒114-0001 東京都北区東十条3-10-36

## ■ 株式の状況 (平成28年9月30日現在)

発行可能株式総数 200,000,000株  
 発行済株式の総数 86,267,808株  
 株主数 4,651名  
 単元株式数 1,000株

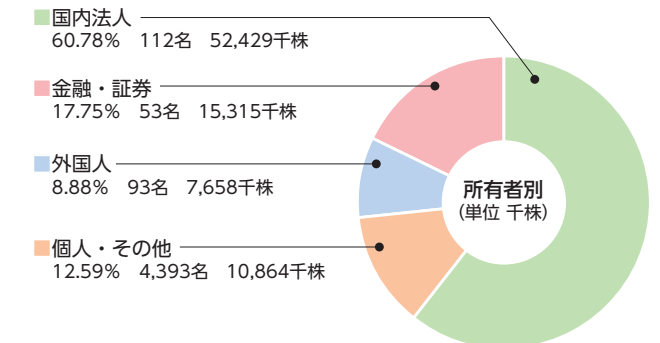
## ■ 大株主 (平成28年9月30日現在)

株 主 名	持株数(千株)	持株比率(%)
凸版印刷株式会社	44,004	51.41
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (退職給付信託口・DIC 株式会社口)	6,129	7.16
INTERTRUST TRUSTEES (CAYMAN) LIMITED SOLELY IN ITS CAPACITY AS TRUSTEE OF JAPAN - UP	3,847	4.49
東洋インキSCホールディングス株式会社	2,315	2.70
立花証券株式会社	2,290	2.67
サンシャインG号投資事業組合	1,435	1.67
三井住友信託銀行株式会社	1,398	1.63
図書印刷従業員持株会	1,384	1.61
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	1,132	1.32
株式会社学研ホールディングス	1,011	1.18

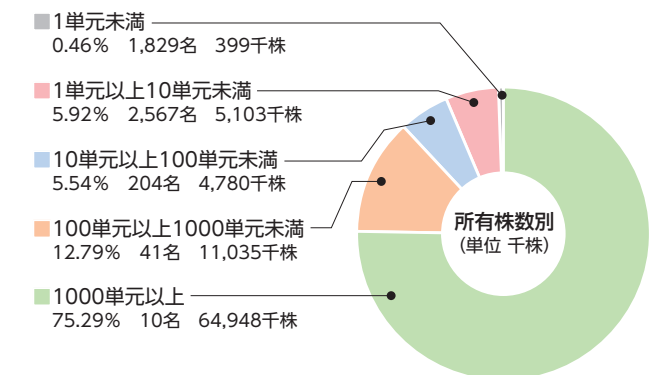
(注1) 持株数は、千株未満の端数を切り捨てて表示しております。

(注2) 持株比率は、自己株式(686,946株)を控除して計算しております。

## ■ 所有者別株式分布状況 (平成28年9月30日現在)



## ■ 所有株数別株式分布状況 (平成28年9月30日現在)



# INFORMATION

## インフォメーション

### ■ 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 毎年6月に開催  
株主確定基準日 定時株主総会の議決権・期末配当金 3月31日  
中間配当金 9月30日  
その他必要あるときは予め公告する日

株式に関する  
お問合せ先

郵便物  
送付先  
電話でのお問合せ先

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
0120-782-031(フリーダイヤル)

- ・住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお手続きについて  
株主様が口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)にお問合せください。  
証券会社等に口座を開設されず、特別口座が開設された株主様は、上記のお問合せ先にご連絡ください。
- ・未払配当金のお支払いについて  
上記のお問合せ先にご連絡ください。

### ブルーサルビア

シソ科サルビア属。原産地は北アメリカで、初夏から秋にかけて次から次へと花を咲かせます。花言葉は「尊重」、「知恵」。

